

様式1

学校教育目標	自他を尊重し 主体的に学び続ける子どもの育成～ 社会に出て通じる力を、これからの社会に必要とされる力を～
--------	--

ミッション	組織的な学校経営と小中連携による教育内容の充実	a ビジョン	(1) 自他を尊重し、これからの社会をよりよく生きるための能力を身に付けさせる。 (2) 保護者・地域から信頼される学校になる。 (3) 教職員の総力を挙げた組織的で機能的な教育活動の推進を図る。
-------	-------------------------	--------	--

尾道市立因北小学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案	
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ			
主体性・表現力	自他を尊重し、よりよいものを求め考えを表現する児童を育てる。	他人の意見をよく聞き、自分の考えを持ち、それを自分のことばで伝える事ができる児童を育てる。	どんな場面でも、誰に対してもはっきりと聞こえる声で挨拶や返事をさせる。できるまでやらせ切る。	【教務部】自分の考えを全校朝会・集会・表彰式等の場で相手に伝えることができる場の設定	100%		100%	100	A	学校再開後は放送による朝会、2学期以降は、外での朝会を行うことができた。集会後に表現の場を設定すること、児童会を中心に朝会の進行ができたことが大きな成果である。 課題としては、集会の目的、集会内容の事前の共有化、成果を生活につなげることである。				<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響で、制限されることがたくさんあったが、その中で工夫しながら学校での取組を行っている。 具体的な目標に対して、取組が行われている。それによる数値の成果も上がっている。継続した取組が成果につながっている。 挨拶や、横断歩道を渡らせてくれた車の方へのお礼は、前よりもできるようになってきた。 卒業するときの姿を具体的に描き、その姿にするために、小さな指導の機会を大切に、積み重ねてもらいたい。 返事ができる子供に育ててもらいたい。学校での取組はあると思うが、生活の中に生きていないところがある。 礼儀については、学校、家庭、地域でもっと子供達に教えていかなければならない。目上の人に対する態度や振る舞いを適切にできるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症による制限はあるが、学校行事や各部の取組など、「どうやったらできるか」「どうやって成果を上げるか」を考え、取り組んでいく。 「挨拶」「返事」等の充実に向けて、児童を中心とした取組を進めていく。 「感謝」の気持ちを持たせる。学校に誰がどのように関わってくださっているかを職員が把握し、しっかりと児童に伝えていく。「感謝」を表現する場を設定する。 取組の充実を図るとともに、やりきらせる指導を行う意識を職員がもつ。
			「3つの宝」を徹底するために、児童会、委員会を活用した取組を行う。	【生徒指導部】はっきりと聞こえる声で挨拶や返事をしようとしている児童	90%	71%	82%	91.1	B	目標値には届かなかったが、児童の姿として成果が出ている。月1回のあいさつ週間、学期に1回のはきものそろえと無言掃除週間の取組を児童を巻き込んだ内容にすることで、児童の意識を高めることができた。特にあいさつについては、児童会や高学年を中心にしたあいさつ運動、地域安全下校への職員の参加を行うことで、元気なあいさつができるようになった。	○				
主体性・表現力	主体的に学び続ける児童を育てる。	「課題発見・解決学習」の充実により、課題意識を持ってすすんで学び合う児童を育てる。	学習や特別活動を主体的に行えるように課題意識を持たせる工夫をする。	【研究部】授業では、自分の考えとその理由を明らかにして相手に分かりやすく伝えるように発表の工夫をしている児童85%	90%	72%	84%	93.3	B	1学期は、「授業では解決しようとする課題について、『なぜだろう』『やってみよう』』と持っている児童」に係り、導入交流期間を設定し、教員がお互いに授業の導入部分を参観し合った。それによって、児童の課題意識を高める授業づくりができた。(87%) 2学期は、「授業では解決しようとする課題について『なぜだろう』『やってみよう』』と持っている児童」に係り、思考・表現を交流する取組を行った。思考・表現場面をビデオに撮り、お互いに見合うことで、授業改善につなげることができた。 3学期は、「本校の振り返りの視点にそって自己の学びを振り返っている児童」に係り、授業後の振り返りの充実に取り組んでいる。年間通して行ってきたので、振り返りの内容は充実してきている。				<ul style="list-style-type: none"> 授業の様子を見ると、落ち着いて学習に取り組んでいる姿が見られた。 一人一台のタブレットが導入されるようなので、それをしっかりと活用した授業を進めることで、児童が主体的に学習に取り組むようにしてもらいたい。 体力の取組を充実させることにより、成果が上がっている。 為末先生に教えてもらう貴重な機会があったことがよかった。子供達には具体的などうやったら速く走ることができるか、どうやったらハードルがうまく跳べるかなどを伝えていく必要がある。 体力とともに、危機管理能力を高めさせたい。何をしたら危険なのか、この状況は危険なことではないのかと判断できるようにしてほしい。そのためには、学校での危機管理意識を高めてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に学習に取り組むために、どの学級でも「因北スタイル」を基にした授業を推進する。 →強い課題意識を持たせる導入 →思考ツールを活用した個人思考、集団思考の充実 →話型を活用した表現の場の充実 →学び方を学び、それを自分の力として自覚できる振り返りの充実 →ICTを効果的に活用し、学習できるよう研修を実施する。 ・体育の授業における思考力・表現力の育成と運動量の確保のバランスのとれた授業づくりをする。 ・学校での取組や目標等を保護者に発信し、家庭での体力づくりも推進する。 ・児童の実態を把握し、課題意識、改善点等を交流する場を積極的に設定する。
			学んだことが自覚できるように、自己の学びを振り返らせる。	【研究部】授業では解決しようとする課題について「なぜだろう」「やってみよう』』と持っている児童90%	90%	72%	84%	93.3	B	体力に関する課題を焦点化して体力テストの取組を行った。体力テストに関する職員研修、取組の焦点化、体育の時間だけではなく、休憩時間等も利用した日常の取組も行うことで、県平均を超える項目を増やすことができた。 課題としては、意識や取組を持続させることである。	○				
			自分の命や体は自分で守る指導を充実させる。	【保体部】1回目の体力テストの課題から、体育の授業やがんばりカードで取組を行い、再測定時に平均値を上回る児童	100%		72%	72.2	C						

【自己評価 評価】
A：100≦(目標達成)
C：60≦(もう少し) < 80

B：80≦(ほぼ達成) < 100
D：(できていない) < 60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。